

あおいもりPSW通信

H27. 7. 15/Vo1.21

<巻頭言> 会員一人ひとりのニーズを生かす協会を目指して

青森県精神保健福祉士協会 会長

公益社団法人日本精神保健福祉士協会青森県支部 支部長 山田 伸

1999年10月21日、青森県精神保健福祉士協会の設立総会が行われ、会員数32名で設立されました。当時、学生だった私は恩師である故永長昌之先生に連れられ出席していました。そこで、初代会長である藤林正雄氏(現相談役)、前会長である石田康正氏(現相談役)と出会っていたのです。この時点で、私の将来の道は決まっていたのかもしれない、と思わざるを得ないのです。

私は2003年4月に現所属機関に初めての精神保健福祉士として採用され、右も左もわからないまま、目の前のクライアントに向き合うことで精一杯でした。不安、迷い、葛藤など悩まない日はありませんでした。よりどころが県協会主催の研修会への参加、そこで出会う諸先輩方でした。いつしか、協会活動へ参加し、そこで出会う人たちが、私を成長させてくれました。あの設立総会から時は16年が経ち、会員数は131名となりました。私たちを取り巻く状況は変化し、活動領域の拡大、役割が多様化しています。それに伴い、会員のニーズに十分に答えきれていない状況があります。改めて会員のニーズが反映される組織作りと社会的使命と役割を実現するための組織を目指し、選挙による理事選出に至ったのです。

かくして、2015年5月17日の定時総会において私は会長という重責を担うことになりました。こんな未熟者が務まるのだろうかと不安を感じますが、心配無用です。新理事の顔ぶれを見るとわかる通り、なんとも個性豊かで、今日の精神保健福祉領域で活躍する人たちばかりで頼もしい限りです。一抹の不安は、意思統一を図れるかどうかということでしょうか。

最後に、前理事、前事務局長のご尽力に感謝し、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。また、本協会は会員一人ひとりのニーズと活動によって運営されることから、みなさまと共に歩む協会活動にしたいと考えています。会員一人ひとりの力を結集し協会活動を活発にしていきたいと思います。

<活動報告> 青森県精神保健福祉士協会および

(公社)日本精神保健福祉士協会青森県支部定時総会の開催について

去る平成27年5月17日(日)、青森市しあわせプラザにおいて青森県精神保健福祉士協会および(公社)日本精神保健福祉士協会青森県支部の定時総会が開催されました。

今年の総会は理事の交代(12名中8名が新理事)もあり、議案協議と前理事からの引継ぎを行い、これまでご尽力された石田前会長や前理事の皆様の活動、想いを新理事が引継ぎました。県内の各分野で働く精神保健福祉士にとって魅力ある協会になるよう今まで以上に活発な協会活動を目指すことを確認いたしました。



あおいもりPSW通信 2015.7.15/No.21

発行元:青森県精神保健福祉士協会

発行責任者:会長 山田 伸

事務局:一般社団法人 青森精神医学研究所 附属 浅虫温泉病院

〒039-3501

青森県青森市大字浅虫字内野27-2

TEL 017-752-3004 FAX 017-052-3194

URL <http://aomori-psw.com>

広報委員会

近藤 龍太郎 福井 康乃 下田中 隆哉

北畠 涼一 鹿俣 亘 渋谷 雅仁

清水 恵美 成田 章子

<報告>青森県精神保健福祉士協会役員について

すでに協会ホームページにも掲載していますが、新理事の役職氏名を以下の通りご報告致します。

会長 山田伸（弘前五所川原地区、聖康会病院）

副会長 津川貴史（青森地区、青森県立つくしが丘病院）

清水博己（八戸地区、NPO 法人夢）

事務局長 清水博己（※兼務）

理事

・研修部門担当

波田野隼也（青森地区、青森市役所障がい者支援課）

田中泰子（八戸地区、松平病院）

西山千晴（八戸地区、八戸市役所障害福祉課）

・広報委員会担当

渋谷雅仁（青森地区、芙蓉会病院）

成田章子（八戸地区、東八戸病院）

清水恵美（上十三むつ地区、十和田市立中央病院）

・災害支援委員会担当

鎌田晋（弘前五所川原地区、藤代健生病院）

鎌田高弘（弘前五所川原地区、弘前愛成会病院）

宮古道子（上十三むつ地区、八戸市生活自立相談センター）

監事 鹿俣亘（青森地区、青森保護観察所）

大場裕美（弘前五所川原地区、地域活動支援センターラ・プリマベラ）

相談役 石田康正（青森地区、浅虫温泉病院）

藤林正雄（青森地区、青森大学）

（公社）日本精神保健福祉士協会 青森県支部代表委員

鹿俣亘（青森地区、青森保護観察所）

以上、宜しくお願いいたします。

<研修レポート>

6月25日～27日の3日間、福島県郡山市にて「共生・創造・未来～はじめようここから！～」をテーマとする第51回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会・第14回日本精神保健福祉士学会学術集会在開催されました。近県開催の今回は本県からも多数の参加がありました。参加者された鎌田高弘さん（弘前愛成会病院）からのレポートをお届けいたします。

3.11の東日本大震災から4年が過ぎ5年目の年に、福島県郡山市での精神保健福祉士協会全国大会・日本精神保健福祉士学会学術集会在開催され、私は全国精神保健福祉士協会の全国規模の集会へ初めての参加をしてみました。

会場である福島県郡山市のビッグパレットふくしま敷地内の仮設住宅で避難生活を余儀なくされている方もいらっしゃる現実を目の当たりにして、震災から5年が経ってまだまだ道半ばであることを実感し、大会テーマの「共生・創造・未来～はじめようここから！～」と言う言葉の意味を改めて考えての会場入りとなりました。

全国での実践や研究等について400名以上の参加者と共に学び、精神保健福祉士の価値や実践と業務について新しい知見を得ることができました。柏木会長の基調講演でもソーシャルワーカーは個人に対する働きかけだけではなく、社会を意識した働きかけが重要であると強調されており、自分の実践を振り返った時に、多くの反省点があることを改めて感じました。しかし、精神保健福祉士の基本となる大切なことを全国にいる多くの仲間と再確認し、多くの仲間が支えあいながら日々の実践を重ねていることを感じる事ができ、とても心強く感じる事ができた大会でした。

<PSWリレー>

今回は十和田中央病院の清水恵美さんに、ご自身が参加している「じゅんちゃん一座」についてご紹介いただきました。

はじめまして。十和田市立中央病院でPSWとして勤務している清水恵美（しみず めぐみ）です。ひとり職場ですが、周囲に支えられながら慌ただしい毎日を送っています。そんな日々の中で、地域の様々な方との繋がりの中から生まれた「じゅんちゃん一座」（以下一座と略す）についてご紹介します。

一座は、寸劇を用いて認知症の普及啓発をするために結成されました。座員は精神科医、PSW（私）、保健師、ケアマネージャー等で構成された、多職種多職場チームです。一座の講演は笑いながら自然に認知症を知ることができるとご好評頂き、50回の講演を重ね、のべ8000人以上の方に見て頂いています。また、一座の活動は座員の楽しみ、本来の仕事のモチベーションを上げる働きをし、練習や講演への移動時間は多職種カンファランスとなり、顔の見える関係作り会議でもあります。更に警察や教育現場とも繋がる事ができ、顔の見える関係作りの輪が広がっています。又、一座で「ラン伴」で櫻を繋ぎ走ったり、のど自慢予選会に出場（敗退）したり、「元気まるごと知事トーク」にて県知事



前列中央が清水さん。「じゅんちゃん一座」を通した、笑顔と連携の輪が広がる素敵な活動ぶりがうかがえます。

の前で寸劇を披露したり、県外講演の帰路、七戸十和田駅で下車予定が何故か停車しない新幹線に乗りしてしまったりと、独りでは体験できない経験をさせてもらっています。

今後、八戸8月29日、弘前9月19日、青森10月24日に講演があります。顔の見える関係作りの輪を広げに、ぜひ会場に遊びに来てください。

【会費の納入をお願いいたします】正会員 5,000 円、準会員 3,000 円、賛助会員 1,000 円

振込先: 青森銀行 五所川原支店 普通 1883187 名義: 青森県精神保健福祉士協会 代表 山田 伸